

第2事業年度(2019年10月1日～2020年9月30日)

事業報告

1. 事業目的

アフリカ、カンボジアの恵まれない子どもたち、女性、青少年たちの教育、健康等に関することを中心に支援活動いたしました。第2事業年度はこの2国に加え、アフリカ支援で強いつながりのある聖マリア女子修道会の新たな活動場所として、東チモールのアタロウ島でのプロジェクトも支援いたしました。

- アフリカ支援では、特に内戦とエボラ出血熱で苦しむコンゴ民主共和国の東部地方に重点的に行っています。支援は、聖マリア女子修道会を通して実施されています。
- カンボジア支援は、ポル・ポト政権時の悲惨な内戦終了から40年経つ今、ますます貧富の差が拡大し、農村部では子供たちの教育や生活環境はいまだ改善が遅れています。特にシェムリアップ近郊に位置する貧しい村を対象に継続的に支援し行っています。この支援は現地イエズス会の司祭を通して実施されています。
- 東チモール支援については、アタロウ島の女性、青少年、子供たちを対象に教育、医療面の新規事業として支援を行うことにしました。支援は聖マリア女子修道会の要請により行われます。

2. 会員と収益について

会員数： 609名

退会者数： 7名（2018年設立時から現在までの人数）

収益に関しては、決算報告を参照。

3. 活動について

3-1. 定期活動

1. 理事会 5回（臨時会議含む。電話会議およびZoom等のビデオ会議も利用）
2. スタッフ会議 4回（電話会議およびZoom等のビデオ会議も利用）
3. カンボジア視察訪問（4名）+現地スタッフ（1名）2019.10.6～2019.10.10
4. 広報誌 Smiling 創刊号（2020年12月）および2号発行（8月）
5. パイプオルガン コンサートを計画したが新型コロナウイルスのため無期延期とした

3-2. 対外事業活動

- カンボジア事業
 - 2019年12月3日および2020年5月27日 シェムリアップ教会へ支援金送金（教区内の学校教育支援 etc.）
 - シェムリアップ教会主任司祭から事業報告および近況レポート（広報誌参照）があった
- アフリカ事業
 - 2020年5月27日 聖マリア修道女会アフリカ管区に支援金送金
 - アフリカ管区長より支援金についての事業報告および現地の近況レポート（広報誌参照）があった
- 東チモール事業
 - 聖マリア修道女会本部（ローマ）Sr.荒井祥恵から東チモールのアタロウ島教育支援の提案をいただき、会の趣旨に一致する活動であることから、理事会、スタッフ会議で支援することを決定した。
 - 2020年6月4日 支援金を米ドルに換金し手渡し（Sr.荒井が日本に滞在していたため代表理事より直接手渡した）
 - Sr.荒井から、その後の状況報告がメールであった。新型コロナウイルス感染の収束が見えず、東チモールへの渡航に遅延が出ているとのこと。

3-3. 支援者への啓発活動

支援者との連携活動として報告会、講演会、コンサートなどを計画したが新型コロナウイルス感染拡大のために実施できなかった。

以 上

第3事業年度(2020年10月1日～2021年9月30日) 事業計画

第3事業年度もコロナ禍において、感染対策を考慮しつつ、さらに困窮する支援先に対する継続的な責任を果たすべく、活動を継続し拡充していきたいと考えております。そのことを念頭に置きながら以下の事業計画を予定しております。

1) 総務関係

- 理事会開催 6回/年
- スタッフ定例会 6回/年
- 年次総会 2021年11月頃を予定

2) 財務関係

- 2020年12月及び2021年6月にアフリカ、カンボジアへ支援金の送金を行う。
- 送金額については、該当事期の資金の状況により検討する。

3) 広報関係

- 広報誌 Smiling 2回/年 発行
- ニュースレター 隔月あるいは3か月に1度（支援先へのご報告、支援先とのつながり、支援先の現状を知るためのイベント等のお知らせ etc.）

4) 情報管理関係

- 文書管理システムの構築
- Web サイト、フェイスブック等ソーシャルメディアの見直し

5) 企画関係（支援先のことをよく知り、必要な活動への理解を深めるためのイベント）

- 2020年12月 2021年卓上カレンダー「カンガス神父様と子どもたち」制作、販売。
- YouTube などオンライン形態での情報発信（若いスタッフ中心に）
（例）
 - カンガス神父様のお話、酒井神父様からのお話
 - 支援先で活動する神父様、シスター方、ボランティアの方々のお話
 - 支援先のこどもたちのインタビュー
- 時期を見て、オルガンコンサートの実施可能性の検討
- 小規模講演会 人数制限やビデオ会議開催と組み合わせるなど感染対策を前提として

- 他の NPO などの活動家の方などを交えた勉強会
(例) 写真家 渋谷敦志 「写真が何かを語りだす」
<http://www.asiapress.org/asiapress-member/shibuya-atsushi/>

6) 渉外関係 (現在のコロナ禍の中では海外渡航の計画は難しいのでその時の状況に応じ、テレビ会議等による意見交換など代替手段を柔軟に考える)

- カンボジア訪問 (ボランティア体験)
- 東チモール訪問 (現地視察)

以 上